

# 3月30日ISEP所長飯田哲也氏の仙台講演

## 「再エネと市民電力の未来」学習講演会

FIT(固定価格買取制度)を利用して進められてきた市民発電所運動ですが、家庭用以外のFIT制度がなくなり、転換期を迎えています。しかも年々出力制御が強化され、新たに託送料課金制度が発足します。こんな難問を抱える中「市民発電所運動の今後はどうなるのか」を学ぶため、自然エネルギー分野で活躍されている環境エネルギー政策研究所( I S E P ) 所長飯田哲也氏の学習講演会を3月30日に開催することにしました。主催団体は「みやぎ地域・市民電力連絡会」です。



### 飯田哲也(いいだてつなり)氏のプロフィール

NPO法人環境エネルギー政策研究所( I S E P ) 所長。1959年、山口県生まれ。京都大学・東京大学で原子核工学を学び、原子力産業や原子力安全規制などに従事後、「原子カムラ」を脱出して北欧での研究活動や非営利活動を経て、 I S E P を設立し現職。自然エネルギー政策では国内外で第一人者として知られ、先進的かつ現実的な政策提言と積極的な活動や発言により、日本政府や東京都など地方自治体のエネルギー政策に大きな影響を与えている。

## 「再エネと市民電力の未来」(仮題) 学習講演会

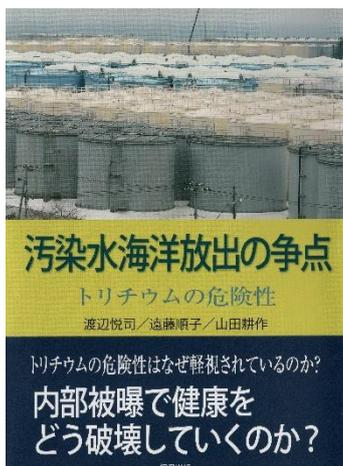
東北電力NWの出力誤作動の経過と問題点(水戸部秀利氏)

飯田哲也氏講演「再エネと市民電力の未来」(仮題)

日時 3月30日(土) 午後1時受付開始、午後1時半開始

場所 仙台市シルバーセンター第2研修室(仙台市花京院)

参加費 無料      オンライン参加も予定



### 汚染水海洋放出の争点

トリチウムの危険性を記す著書「汚染水海洋放出の争点」(緑風出版)を入手しました。希望者に3,000円でお譲りします。「ICRPやIAEAの被曝実行線量係数は科学的根拠を欠き」「有機分子の水素にトリチウムが置き換わり、体内に長くとどまり、内部被曝で健康被害を引き起こす」と紹介します。

きらきら発電・市民共同発電所 ニュース  
2024年3月113号  
〒981-3215 仙台市泉区  
北中山3丁目17-12  
070(2010)3777  
HP [kirakirahatuden.com/](http://kirakirahatuden.com/)  
[hirohata3888@outlook.jp](mailto:hirohata3888@outlook.jp)

# 汚染水海洋放出の危険性を指摘する名著

表面で紹介の著書「汚染水海洋放出の争点」には、2021年4月13日の閣議決定が紹介されています。「トリチウムは、①水素の仲間(放射性同位体)で、②弱い放射線を出す放射性物質。③トリチウムは雨水や海水・水道水など自然界に広く存在する。④多核種除去施設ではトリチウムを除去することは困難。⑤トリチウムは原子力施設から放出されており、福島第一原発に貯蔵される全量以上にトリチウムが1年間で放出される例もあるが、⑥トリチウムが原因と考えられる影響は確認されていない。」そして著書は閣議決定を批判しています(一部広幡が加筆修正)。

## 2021年4月13日の閣僚会議決定を徹底的に分析・批判



### 放射性同位体の危険性にふれない

文書は「トリチウムが水素の放射性同位体」と規定しながら、放射性同位体の危険性に全く沈黙する。人体を構成する原子の6割以上が水素であり、有機分子の水素にトリチウムが置き換わり体内に長く留まり内部被曝で健康被害を引き起こし、ベータ崩壊でDNAを傷つける可能性が高い。

### 弱い放射線だから危険がないわけではなく、飛行距離が短いからかえって危険

次にトリチウムを「弱い放射線を出す放射性物質」と紹介し、危険でないかのようにふるまう。放射線物理学的「弱さ」とは「エネルギーが低く、飛行距離が短いために、周囲の分子に対する反応性が高く、生物学的危険度はかえって高くなる」ことを意味する。

### 「多核種除去施設でのトリチウム除去は困難」の本当の意味は？

「多核種除去施設でトリチウムを除去することは困難」の文面は「仏製ALPSに除去能力がないことを示す」だけで、トリチウム除去技術がないわけではない。カナダでは重水素を原子力施設で使用しているので、三重水素のトリチウムを取り出す技術は確立している。

### トリチウムは原子力施設から放出され、福島貯蔵量を1年間で放出する？

政府が福島第一事故でALPS処理水を貯蔵した時、一番困ったのが原発からも放出される事実である。「トリチウム汚染水を放出しない」事実が続けば、原子力発電の怖さを国民が知ってしまうというジレンマ。それを素直に表明した文書だが、「1年間に全量以上を放出する例」は再処理工場だけである。再処理工場の危険性を自ら認めた文書になっている。

### 「トリチウムの影響は確認されていない」は真っ赤な嘘

「トリチウムの影響は確認されていない」は真っ赤な嘘。1974年に国立放射線医学総合研究所の中井斌氏が「低濃度でも人のリンパ球に染色体異常を起こす」と報告。外国でも、1983年英国セラフィールド再処理工場労働者家族の小児白血病、2015年カナダ原子力委員会「ピカリング重水炉周辺のダウン症発症率の高さの原因」と報告している。

